



# 東日本大震災の経験を活かした 防災への取組



岩手県陸前高田市田谷地区集団移転協議会  
事務局長 村上 俊之

## 1 田谷地区の紹介

田谷地区は岩手県陸前高田市広田町にあります。広田半島のほぼ中央部にあり、平地の少ない半島内では平地（低地）の多い地域です。

## 2 東日本大震災

田谷地区は先の東日本大震災において甚大な被害を受けました。特に天王前集落では防潮堤の決壊により、家屋の8割以上が流出しました。また、半島の根元部分で津波被害を受け、外部との連絡が遮断され孤島となってしまいました。

田谷地区の住民は、地区内にある陸前高田市指定の2次避難場所である「広田小学校」で避難生活をおくることになりました。避難生活初期、孤島となった広田半島では外部からの救援等が期待できないと考え、道路の瓦礫撤去、遺体搜索等を各集落の住民自らが行っていました。避難所生活は7月上旬まで続くこととなりますが、それまでの間に「住宅再建」等について住民間で話し合わせ、当協議会が立ち上がりました。

## 3 ウインドレンズ風車との出会い

協議会で話し合われたことの中で、避難生活初期の段階でほんとうに困ったことは何か、という点があります。それは「食料の確保」「飲料水の確保」「停電」の3点でした。特に「停電」については、東日本大震災が3月、しかも寒い日だった

こともありブルーヒーター等の暖房器具が使えず、本当に深刻な問題として取り上げられました。

そこで、低周波を発生しない、バードストライクが無い等当地区に適している「ウインドレンズ風車」に着目しました。岩手県企業局の助成金等を活用し、既に地区内の仮設住宅敷地内に東京のNPO法人「伝統木構造の会」に寄贈していただいた「木造仮設談話室」で使えるように風車を設置し、蓄電池を蓄え、万が一停電があった場合は、談話室に来れば暖房器具が使えるようにし、これを住民に周知しました。



ウインドレンズ風車設置

## 4 逃げ地図ワークショップ

次に検討されたのが避難地図の見直しでした。従来の「ハザードマップ」は単に高さのみを記載しているものですが、大震災の経験からこれだけでは情報不足ということが分かりました。そこで、状況によった津波の動き、避難道の状況、避難時間等が分かりやすい「避難地形時間地図（逃げ地図）」に注目しました。

また、1度のワークショップでは情報が網羅できないとして、学生対象、消防団対象、女性部対象と3度開催し、地元住民だけではなく観光客等外部の方にも分かりやすいものが出来上がりました。

この逃げ地図の利点として、「防災教育のツール」としての活用が大きいと考えています。例えば、復興事業等で道路が変われば避難方法も変わる等状況の変化で避難ルートも変わるという点です。

そこで、子供たちを対象に「キツネを探せ」というイベントを開き、楽しみながら、どう逃げるのか、どこに行けば飲み水があるのか等を実践してもらいました。

## 5 こながに会議開催と「こながに」のこと

当協議会では岩手県教育委員会が当地域への建設を予定している「岩手県立野外活動センター」の防災面への活用、逃げ地図の発展・継続・地域活性化への活用等を、岩手県より専門家派遣の助成を得てワークショップ「こながに会議」（「こながに」というのは当地方の方言で、近い将来という意味です。）を継続中です。この会議は多くの大学、学生、他地域の

まちづくり団体のご協力の下開催されています。この体制をさらに発展させることによって、これまでの経験を踏まえた、より実行力のある「地区防災計画」ができるのではないかと考えています。



逃げ地図ワークショップ（消防団）



逃げ地図（広田・全体）